

和歌山県

キャリア形成卒前支援プラン



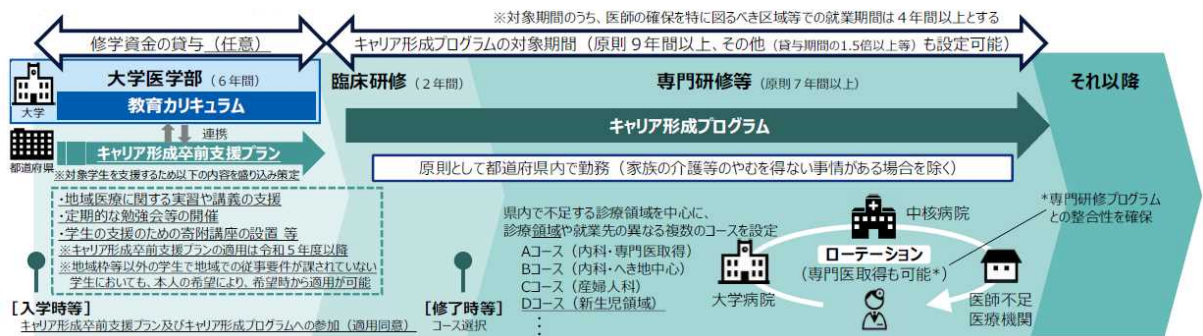
令和7年2月

和歌山県キャリア形成卒前支援プラン

○概要

キャリア形成卒前支援プランとは、各大学で実施している医学部の教育カリキュラムを基盤としつつ、地域医療へ貢献する意思を有する学生に対し、地域医療や将来の職業選択に対する意識の涵養を図り、対象学生が学生の期間を通じて、地域医療に貢献するキャリアを描けるように支援をすることを目的として、都道府県が大学の協力も得つつ策定する計画のことです。

＜キャリア形成卒前支援プラン及びキャリア形成プログラムに基づくキャリア形成のイメージ＞



（出典：厚生労働省資料）

○対象者

本プランの対象者は以下のとおりです。

対象学生の同意のもと、令和5年4月入学者から適用されます。

- ・和歌山県立医科大学地域医療枠及び県民医療枠で入学した学生
- ・近畿大学医学部和歌山県地域枠で入学した学生
- ・和歌山県出身の自治医科大学の学生
- ・その他キャリア形成プログラムの適用について同意した学生

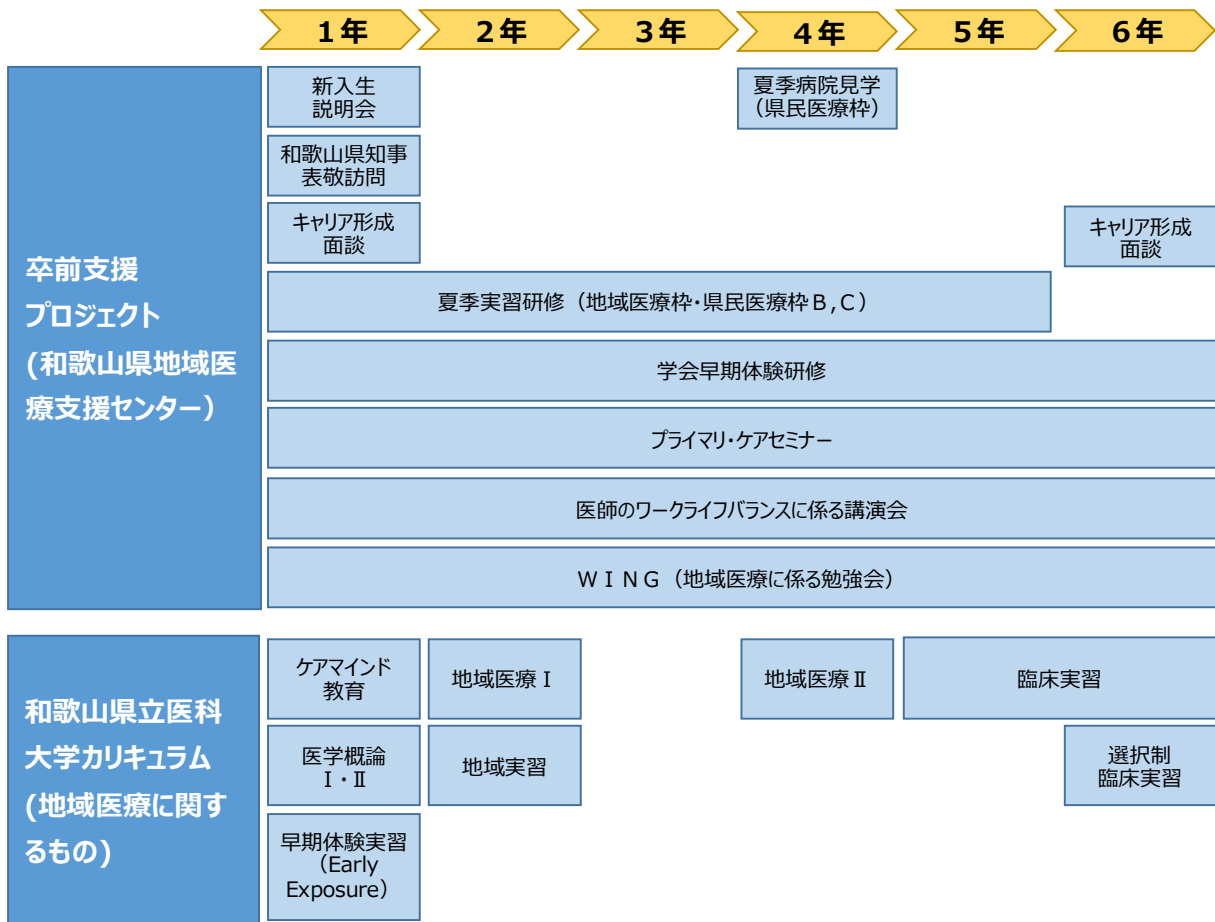
○卒前支援プロジェクト

本プランでは、大学や医療機関等と連携し、学生の地域医療等に対する意識の涵養を図るためのプロジェクトである「卒前支援プロジェクト」を策定しています。

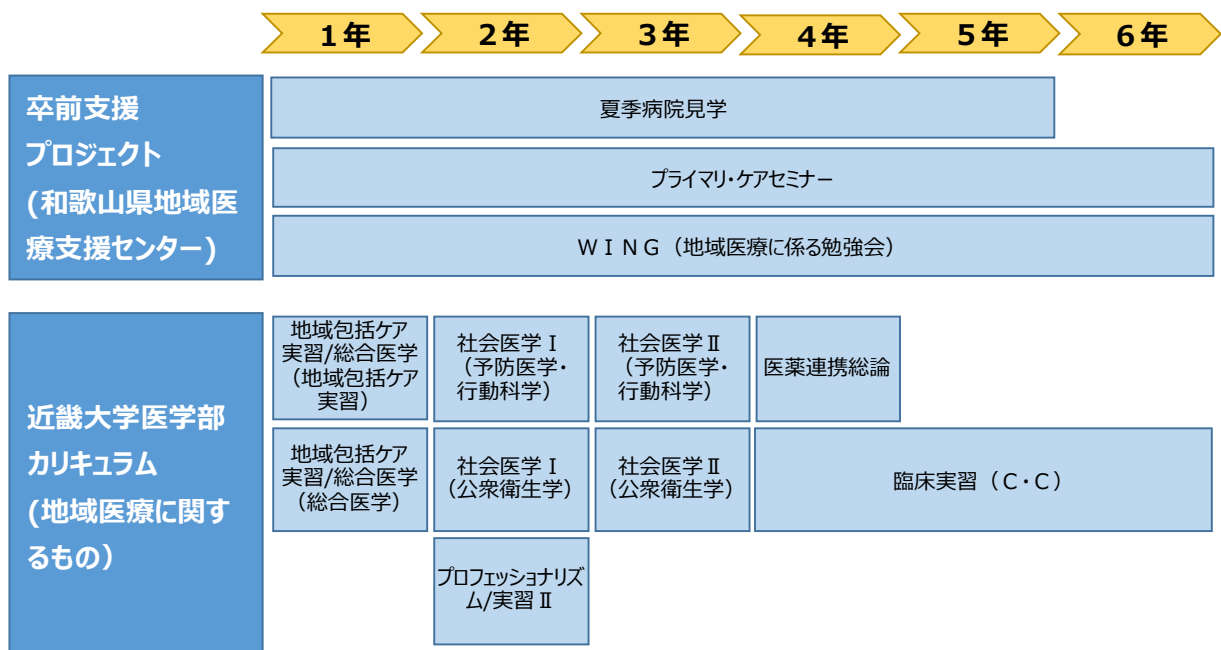
○対象期間

本プランの対象期間は、入学時又は当該プランへの適用の同意を得た時から卒業時までとします。

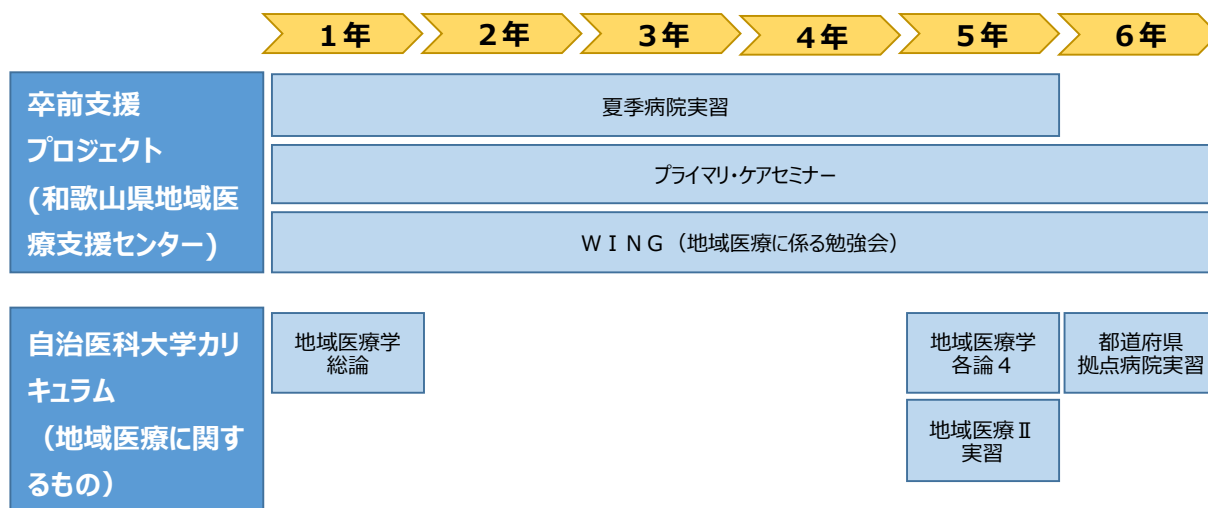
和歌山県立医科大学（県民医療枠・地域医療枠）の卒前支援プラン



近畿大学医学部（和歌山県地域枠）の卒前支援プラン



自治医科大学（和歌山県出身卒）の卒前支援プラン



■ 新入生説明会

- 1 対象 和歌山県立医科大学
地域医療枠及び県民医療枠 1年生
- 2 時期 4月頃
- 3 内容 地域医療枠及び県民医療枠に求められる
役割の周知

■ 和歌山県知事表敬訪問

- 1 対象 和歌山県立医科大学
県民医療枠及び地域医療枠 1年生
- 2 時期 10月～12月頃
- 3 内容 和歌山県知事（もしくは副知事）と地域
医療について懇談することにより、本県地域
医療についての意識を醸成する



■ キャリア形成面談

- 1 対象 和歌山県立医科大学
県民医療枠及び地域医療枠 1年生及び6年生
- 2 時期 6月～7月頃
- 3 内容 1年生に対しては地域医療枠及び県民医療枠の制度説明や、卒前・卒後の
キャリア形成に関するヒアリング、6年生に対しては卒業後の進路に関するヒア
リングを実施

■ 学会早期体験研修

- 1 対象 和歌山県立医科大学
県民医療枠及び地域医療枠 1～6年生
- 2 時期 随時開催
- 3 内容 学会の体験
(令和5年度は日本プライマリ・ケア連合学会
学術大会に参加)



卒前支援プロジェクト

■ 夏季実習研修

- 1 対象 和歌山県立医科大学
地域医療枠・県民医療枠 B, C 1～5年生
- 2 時期 夏季休暇中
- 3 内容 県内へき地医療拠点病院、保健所等で実習・見学を行い、地域医療に従事する医師の役割・責任について認識を深める



■ 夏季病院見学

- 1 対象 和歌山県立医科大学
県民医療枠 4年生
- 2 時期 夏季休暇中
- 3 内容 県内公的医療機関の見学を行い、地域医療に従事する医師の役割・責任について認識を深める



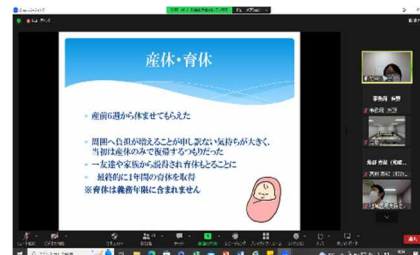
■ プライマリ・ケアセミナー

- 1 対象 和歌山県立医科大学 1～6年生
近畿大学和歌山県地域枠
自治医科大学和歌山県出身枠
- 2 時期 随時開催
- 3 内容 統合的な診察能力を有する医師に必要な地域や技能を学び、総合診療についての理解を深めるための講演会に参加



■ 医師のワークライフバランスに係る講演会

- 1 対象 和歌山県立医科大学地域医療枠及び
県民医療枠卒業医師が派遣される県内
公的医療機関、本学学生及び研修医等
- 2 時期 2～3月頃
- 3 内容 ワークライフバランスに係る講演会
(令和5年度は女性医師の出産・育児
とキャリア形成についての講演会)



卒前支援プロジェクト

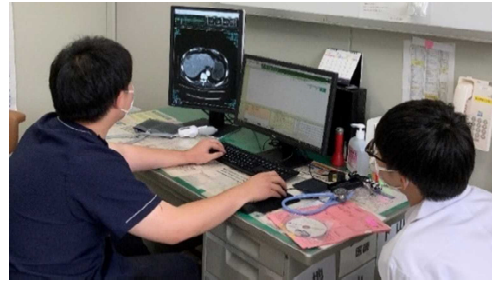
■WING（地域医療に係る勉強会）

- 1 対象 和歌山県立医科大学
地域医療枠及び県民医療枠
近畿大学和歌山県地域枠
自治医科大学和歌山県出身枠 1～6年生
- 2 時期 毎月1回
- 3 内容 オンラインでの地域医療に係る勉強会、学生・卒業生の交流



■夏季病院見学

- 1 対象 近畿大学医学部
和歌山県地域枠 1～5年生
- 2 時期 夏季休暇中
- 3 内容 和歌山県立医科大学の病院見学を行い、地域医療に従事する医師の役割・責任について認識を深める



■夏季病院実習

- 1 対象 自治医科大学
和歌山県出身枠 1～5年生
- 2 時期 夏季休暇中
- 3 内容 へき地診療所等での実習を行い、地域医療に従事する医師の役割・責任について認識を深める



先輩医師に聞いてみました

中村 有貴 先生 消化器外科

和歌山県出身／自治医科大学卒（卒後 13 年目）

●和歌山県内で働く魅力

私は和歌山県出身であり、大学入学前から将来は和歌山県内で働きたいと考えておりました。大学を卒業し、和歌山県立医科大学で初期臨床研修を行い、複数の病院・診療科でご指導いただきましたが、いずれの病院においても、先生方は非常に熱心に指導して下さい、また、基幹病院、中核病院、地域の病院や診療所との連携も密に取られています。そのため、和歌山県は医師として大変働きやすい環境にあると思います。さらに、和歌山県には有名な観光地や美味しい食べ物がたくさんあり、仕事のあとや休日は楽しく過ごすことが出来ることも魅力の一つです。

●診療科を決めた理由

初期臨床研修開始当時は将来進みたい科は決まっていませんでした。地域医療に従事するにあたり、どのような疾患に対しても初期対応ができるようにならなければならないと漠然と考えており、和歌山県立医科大学の自由度の高いプログラムのもとで、1ヶ月から3カ月ごとに様々な病院・診療科で研修を行いました。その中で、消化器癌の診療に携わりたいと考えるようになりました。当初は、地域では専門的な修練が十分に行えないのではないかと不安がありましたが、週に1度の研修日を利用して手術手技などの修練を積むことが出来ることや、自治医科大学出身の先輩方が外科医として活躍されていることを伺い、消化器外科に進むことに決めました。

●印象に残っていること

地域派遣では4か所の病院で勤務しましたが、いずれの病院でもスタッフや地域住民の方々に温かく迎え入れていただき、充実した時間を過ごすことが出来ました。また、地域における数少ない医師として、患者さんから信頼されていることを感じ、地域医療に従事してすぐに医師としての使命感を強く持つようになったことを覚えています。

●学生向けメッセージなど

地域社会の医療の確保と向上のために、私たちに与えられた役割は非常に大きく、地域医療はとてもやりがいのある仕事です。

中村 有貴 先生のキャリア

1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	6年目	7年目	8年目	9年目
初期臨床研修		地域派遣			専門研修		地域派遣	
和歌山県立医科大学 附属病院		国保すさみ病院 内科		高野山 総合 診療所 内科	和歌山県立医科大学 消化器外科		有田市立 病院 内科	熊野川 診療所

大学院入学

義務年限終了
外科専門医取得
学位取得

先輩医師に聞いてみました

川端 大輝 先生 泌尿器科

和歌山県出身／和歌山県立医科大学地域医療卒（卒後 11 年目）

●和歌山県内で働く魅力

和歌山県はご存じの通り縦に長く、地域が違えば患者層や疾患頻度も大きく異なります。それぞれの地域での診療を経験することで、大学では診ることのできない疾患や患者さんに触れることができます。また特に海岸沿いでは、紀南地方に行けば行くほど、おいしい海の幸が楽しめるのも魅力ではないでしょうか。

●診療科を決めた理由

もともとは総合内科を志望していましたが、研修医のときに外科系を回った際の手術やいろいろな処置が楽しくて、外科系も考えるようになりました。どちらかに決めるのは困難でしたが、考え方によっては地域医療派遣の義務年限は総合内科的な仕事ができると思ったので、専攻科は外科系にしよう決めました。なかでも排尿障害や感染など内科的な管理も多いことと、腎移植にも興味があったことから泌尿器科を選びました。

●印象に残っていること

なんと言っても熊野川診療所での 1 年間です。いろんな意味で勉強になりました。その地域にどっぷりと浸かってみようと思いを決めて臨んだ 1 年間でしたが、皆さんが同じ地域の家族のように接してくれ、とても温かい気持ちで過ごせたこと。反対にひとりでいろいろと悩みながらも、家族を診るようなつもりで毎日患者さんを診察し、怖い思いもたくさんしたこと。人間的にもとても成長できたと感じた期間でした。

●学生向けメッセージなど

派遣される期間や派遣先ばかりが気になるころだとは思いますが、本当に真価が問われるのは義務年限が終わった 10 年目以降だと思います。それまでの 9 年間で如何にして過ごすかが大切だと思いますし、地域医療コースで過ごす 9 年間は 10 年目以降のためになることが詰まった、とても充実した期間であることは間違いなくと思います。どこの地域、どこの病院・診療所に行っても、みなさんひとりひとりがなくてはならない存在になると思いますし、やりがいの詰まった 9 年間になることだと思います。どれだけ過疎地域や小さな病院であっても、そこでしか学べないことがありますし、ほかの医師には経験できない多くのことが経験できるはずです。みなさんの活躍を大いに期待しています。

川端 大輝 先生のキャリア

1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	6年目	7年目	8年目	9年目
初期臨床研修		地域派遣			専門研修		地域派遣	
和歌山県立医科大学 附属病院		橋本市民 病院 内科	国保野上 厚生総合 病院 内科	国保日高 総合病院 内科	和歌山県立医科大学 泌尿器科		熊野川 診療所	新宮市立 医療 センター 内科

▲
大学院入学
義務年限終了

先輩医師に聞いてみました

久米川 綾 先生 産婦人科

大阪府出身／和歌山県立医科大学県民医療卒（卒後 10 年目）

●和歌山県内で働く魅力

和歌山県内で働く魅力の一つは人々の人柄の良さと思います。私の研修時や入局当初時のまだ診察が不慣れな時にも、患者さんは不満な顔一つせず「焦らんとゆっくりやりよ」、「練習してくれていいよ」などと優しい声をかけてくれることが多かったです。私は、大阪の堺市出身で周囲の大人は、とてもせっかちな印象でした。このように声をかけてもらったときはとても安心出来ました。このように焦らずにしっかり診察を行うことが出来、学べるのは和歌山で働く魅力と言えると思います。

私事になりますが、二人目の出産後4カ月で職場復帰させて頂きました。二人目の出産時は出向（和歌山ろうさい病院産婦人科）してすぐのタイミングであり多くの迷惑をかけてしまいましたが、スタッフの皆さんに支えられながら仕事を続けられることが出来ました。この様に和歌山県は、患者さんだけでなく、医療スタッフの方の人柄もとてもいいと感じました。

●診療科を決めた理由

学生のとときに経験させていただいた出産研修で受けた感動がきっかけで産婦人科に興味を持ち始めました。研修医のときには産婦人科と小児科（NICU）のどちらに入局するか悩みましたが、産科医としてはお腹の中で「十月十日」を経た小さな命が誕生させることが出来ること、婦人科医としては思春期の悩み・性感染症・更年期障害・良悪性腫瘍など若者から高齢者までの診療が出来ることに魅力を感じ産婦人科を選びました。

●印象に残っていること

診療していて印象に残っていることは毎回の分娩です。多くの分娩を経験しましたが、患者さんごとに経過が違うため、赤ちゃんの声を聞いたときの母親の安心した顔を見るととても感動しています。また低出生体重などで産まれた子供が、小児科外来に大きくなって通っている姿を見ると感慨深く思うことがあります。

●学生向けメッセージなど

科によるとは思いますが、和歌山で働くとしつくり診察が出来るため一回の診察で多くのことが学べると思います。県民医療卒の方は、せっかく和歌山で働くのであれば、産婦人科医など診療医が少ない事を逆手にとって、他県ではなかなか経験が出来ないことを若い時から経験出来る診療科をお勧めしたいと思います。特に和歌山県では産婦人科医が少なく、忙しいイメージがあるかもしれませんが、多くの医療スタッフで支え合って自分の時間を作れるようにしています。みなさんと和歌山の医療を豊かにしましょう。

久米川 綾 先生のキャリア

1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	6年目	7年目	8年目	9年目	10年目
初期臨床研修		専門研修			地域派遣				地域派遣
和歌山県立医科大学 附属病院		和歌山県立医科大学附属病院 産科・婦人科			和歌山ろうさい病院 産婦人科				(未定)

▲
産婦人科
専門医取得

《 問い合わせ先 》

- キャリア形成卒前支援プラン及び修学資金制度に関すること
和歌山県福祉保健部健康局医務課 医療戦略推進班

〒640-8585 和歌山県和歌山市小松原通一丁目1番地
(TEL) 073-441-2612 (FAX) 073-424-0425

- キャリア形成の相談に関すること
和歌山県地域医療支援センター

〒641-8509 和歌山県和歌山市紀三井寺811番地1
(TEL) 073-441-0845 (FAX) 073-441-0846